

佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成28年9月29日

団体名	大沢地区文化財保存会		
事業名	「なつかしの学び舎 写真で見る おらが村の学校」展		
対象経費	196,000円	支援金額	98,000円

事業の目的・内容	目的 明治5年、「学制」の公布により日本の近代学校教育は始まった。当初の学校施設は寺院や民家を仮校舎としてスタートし、徐々に初等教育施設としての学校が造られるようになった。校舎建築は、和風、洋風、紆余曲折を経ながら明治中期以降は次第に類型化の傾向になった。明治・大正・昭和と、およそ一世紀に渡って近代日本の歴史を刻んできた木造校舎はどんな学校でいつ建てられたのか。佐久市内にあった今は無き懐かしの学び舎「おらが村の小学校」を写真を見ながら振り返ってみたい。
	内容 旧大沢小学校の一般公開に併せて、佐久市内の旧々町村時代にあった木造校舎の写真パネルにして展示する。また建築年や特徴等を略記する。同内容の冊子を作成する。写真パネルは資料として随時活用する。

事業の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・8月13日から16日までの4日間、旧大沢小学校の一般公開に併せて「なつかしの学び舎 写真で見る おらが村の学校」展を開催した。 ・佐久市域内の旧々町村時代にあった木造小学校24校を組写真でA2サイズのパネルにして紹介した。同写真をA4サイズにした縮刷版を100部印刷し希望者に分けた。写真は今後も随時展示する。 ・来場者は、4日間で延べ262人、内、市内226人、市外36人
---------	--



事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて学校といえば、ほとんどが木造校舎だった。明治5年の「学制」によって義務教育が始まり、学校も造られるようになった。和風、洋風手探りの時期からやがて類型化し標準スタイルようなものができあがった。 ・明治の先人が貧しい暮らしの中で、新しい時代への希望を託したのが学校づくりだった。以来凡そ一世紀に渡って日本の初等教育を支え、また、地域の様々な文化活動の拠点施設として親しまれてきたのも小学校校舎だった。 ・忘れかけていた「おらが村の小学校」を写真で振り返ることにより、子供の頃の自分や郷土の歴史を思い起こすことができた。写真を見ながら年配者が若い人に話をしている場面が多くみられた。 ・24校を写真で見ることにより、校舎建築の経緯や特徴、類似性などが理解できた。 ・来場者は、市内ほぼ全域に渡っており、それぞれの学校との共通点や相違点を探ったり、また今も実際に残っている旧大沢小学校に触れることで、記憶はより鮮明になったものと思う。 ・この展覧会を通して、旧大沢小学校の存在を知っていただいた。 ・この展覧会を新聞で知った一市民が、たくさんの古い(戦前)卒業写真を「役立ててほしい」と持参していただいた。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	① できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	① できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	① ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ)
	その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	旧大沢小学校の歴史的文化遺産としての価値と魅力を広く継続してアピールしたい。
---------	--